

河川敷整備をめぐる 住民がビオトープを計画

神奈川県を東西に分ける相模川。この相模大堰の河川敷整備をめぐり、スポーツ広場にした^い市と自然のまま残したい地元住民が対立している。背景には市民への説明を欠いた行政姿勢がうかがえる。

高田ひろし

相模大堰は神奈川県民の水道水

を厚木市が管理する。

の取水口で、河口から二キロ上流にある全長五〇〇メートルの全面堰止め型取水堰だ。神奈川県・川崎市・横浜市・横須賀市の共同出資でつくられた。このほど、周辺の河川敷が大堰の建設で迷惑を受ける地元厚木市（山口^{やまぐち}聡雄市長）への見返りとして整備されることになった。

厚木市はこの計画を地元自治会長に伝えただけで、一般市民には説明しなかった。最近になって計画を知った地元住民の一部が、このような広場ができると大堰で損なわれた自然環境がさらに破壊されることになる、反対運動に上がった。迷惑施設がさらなる迷惑施設を生んだ形だ。住民らは、「相

するスポーツ広場とした場合、どんなメリットがあるのだろうか。

ビオトープとは？

ドイツ語で生物を意味する「**ビオ**」と場所を示す「**トープ**」の合成語「**ビオトープ**」が一世紀ほど前に提唱した言葉で、ある限られた地域に、元来そこにあった自然風景を復元することをさす。ビオトープは最近、土木や造園関係者の間で注目されており、都市部の河川整備、公園造成などの際に、ビオトープを造る動きが活発になっている。（『現代用語の基礎知識2001』より）

